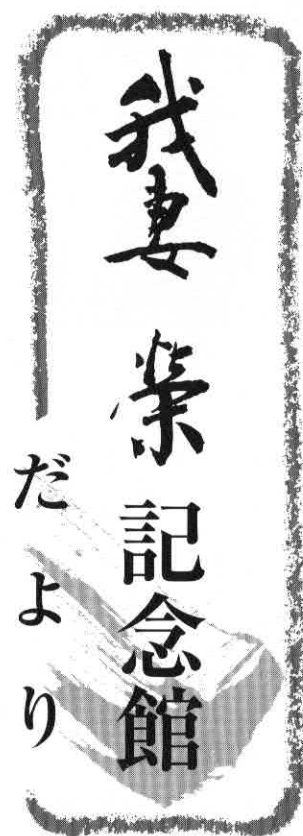




ハーバード大学からの手紙

ハーバード大学ライシャワー日本研究所

コリン・ジョーンズ



自己紹介をさせていただきます。私は、去年コンピリア大学で近・現代日本史の博士号を取り、ハーバード大学の

Reischauer Institute (ライシャワー研究所)で博士研究員になった。専門は思想史

と法制史の共通する分野で、現在、戦前の日本の民法学について本を執筆している。片手間にドキュメンタリー映画を手がけることもある。2012年に、私の妻 Allison Klayman (アリソン・クレイマー)と協力して現代美術家の Ai Weiwei (アイ・ウェイウェイ)の「Never Sorry」という映画を作った。(日本語版は『アイ・ウェイウェイは謝らない』とやや直訳っぽい題名である。)妻は続いて色々なドキュメンタリーを創り出し、名高いドキュメンタリー監督になっ

ています。法学の話に戻していきたい。20世紀前半の日本の法学という

第 23 号

発行日/2018年12月13日

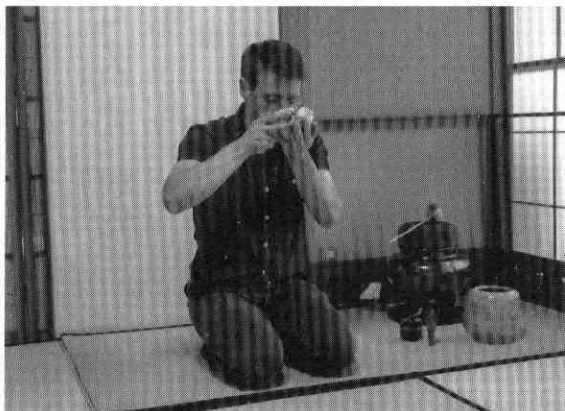
発行/公益社団法人 米沢有為会

我妻榮記念館

〒992-0045

米沢市中央3-4-38

TEL-FAX 0238-24-2211



と、主導的な役割を果たしたのは我妻榮先生である。研究を始めてすぐに我妻先生という人物に出遭い、研究を続けられ続けるほど我妻先生が、私のプロジェクトにおいて重要な地位を占めてきた。研究過程で、我妻先生の『近代法における債権の優越的な地位』と、満州国の民法

編纂に携わった経緯に関心を持つようになり、戦前において我妻先生は法律に関する考え方がどのように発展していったのか、また、その時、どのような日々を送っていたのかなど、より深く理解したくなった。



こういつた疑問が頭の中に浮かんで、今年6月に我妻榮記念館を訪問させてもらった。米沢駅で新幹線から降りると、「我妻榮記念館」館

長の矢尾板さんはすでに待合室に待っていてくださった。車で米沢のグリッド(基盤の目)のような街道を辿って、程なく我妻先生の生家に着いた。そこで、二日間にわたって記念館で資料を調べた。満

州国についての資料や1930年代の資料などがあまりない一方、所蔵された写真と手紙を調べるのが特に興味深かった。すでにこの我妻榮先生の本を精読していたこともあり、また個人の文書を東京大学の東文研で調べたこともあったが、我妻先生の若い頃の

写真を見たり、我妻先生が使ったカード目録をみたりすると、先生をリアリティをもっと感じられるようになった。このような経験は研究にきわめて貴重なものであった。

記念館での調べものの間に、ランチと夕食に連れて行ってもらい、生まれて初めての茶道を体験できたりして、矢尾板さんと手塚さんに大変お世話になった。今も、おもてなしを受けたこと、楽しい会話、そして最初の夜にホテルから川まで散歩に行ってきたことをよく覚えている。



故 小関 薫さん

ミスター有為会こと 小関 薫「城南小僧」さんを想う

公益社団法人 米沢有為会米沢支部

前副支部長 梅津 幸保

す。

同級生仲間から「薫ちゃん」と呼ばれていた小関薫さんは、私の職場の大先輩で小関さんと呼んでいました。悪戯も好きで飄々としていた感じでした。真夏日のある日、文化センターから街中に向う用事があり小関さんの車に乗せてもらいました。乗ったとたん車内温度が異常に熱かったのでドアを開けようとしたら、小関さんが『今、冷房かけますから少しお待ちください』と言うので、その気になって待っていたら、益々熱くなってきたのです。小関さんも汗を拭きながらシメタとばかり「この車冷房ないのよ」と言いつて笑っている。二人で大笑いして即窓を全開にして空気を入れ替え走行しました。さわやかな空気が尚気持ち良かったのを覚えていま

す。小関さんは米沢市南堀端の小関家の次男として昭和12年に生まれました。興譲館高校を昭和31年3月に卒業して中央大学に入り、昭和35年米沢市役所税務課に奉職しました。中央公民館、南原公民館、を経て昭和48年秘書室長、その後視聴覚センター長、西部公民館長、企画広報課長、文化課長、市民部長を歴任され、平成9年3月定年退職され、平成13年(2001)9月上杉博物館・伝国の杜開館に伴い、初代館長として上杉家から寄贈の国宝洛中洛外図屏風の展示観覧に運営の要として奔走されました。

さて、小関さんの米沢有為会との具体的な関わりについて、会員名簿や会誌に記載された部分を少し拾ってみます。昭和31年東京興譲館寄宿舎に入寮しています。青春時代の大学生活をここで謳歌していたものと思われ

れます。有為会の本部総会、は米沢で開催されています。名簿では米沢支部で市役所の秘書係を中心に3人ほどの参事が記載されてお



り、この方々が総会の作業をしていました。小関さん、西村さん、関さん、関さんが秘書課に配属になってから、昭和48年頃、若い市職員で寄宿舎OBが増えたこともあり、小関さん指導の下、8名から10名の職員が参事として名を連ね、総会案内や会誌などの発送作業等を昼休みを利用して手伝っていた様子が見えてきました。その後小関さんが異動して、これらの作業を主導してきたことから、いつの間にか「ミスター有為会」と呼ばれることになったものと思われ

平成4年の我妻榮記念館開館に向けてもご尽力されました。名誉館長にご子息の我妻堯先生をお迎えして記念講演をお願いしました。我妻榮先生は昭和48年10月21日他界されましたが、その年の9月21日に白鷹町荒砥小学校を訪問されています。先生は伯父さんである遠藤茂作元校長先生を敬慕されておられ、度々訪問されておられました。32年後の平成17年12月6日、記念館の小関事務局長の運転で小林由紀子運営委員と梅津管理入で同校を訪問し、寄贈された図書などを拝見してきました。先生の敬慕の心を強く感じました。小関さんは有為会と深く関わってこられたことが、本部理事として文化広報部長を平成9年から務められました。有為会会誌の発行に関わって、会運営の様子、置賜地方の各自治体の動き、各支部の状況報告、東京、仙台の寄宿舎興譲館の様子、我妻榮記念館の様子、会員の情報など盛り沢山の原稿集めから編集校正、広告集めなど担当されました。大変な努力ですので参事の皆さんも手伝っていました。特に小林伸一参事は、その片腕となり、校正大臣の異名をいただいております。

平成17年12月17日午後1時半ころだったと思います。記念館の開館日で私は開館準備をしておりまして、小関さんが恒例の有為会米沢支部理事メンバーが集まる忘年会の準備にいられたのでした。楽しそうに台所に入って豚汁の準備にかかった間もなくです。「うめつつあーん」と叫んだのでしよう大声が聞こえたので、行ってみましたところ、流し台の縁に手をかけ、目まいしたとしゃがみこんでいました。「大丈夫か」と声をかけ、流し台に背を付けて前向きにしました。「救急車を呼びましょう」といったところ、「救急車ダメダメ」というので主治医に連絡しますと話して了解を得、すぐ連絡しました。状況を話したら救急車を呼んでくださいとのこと、すぐに救急車を呼びました。



50日間程入院治療して退院しました。脳梗塞とのこと、視神経異常と言語が少し不自由とのことでした。退院されてからご自宅にお伺いして、何回か面談をしましたが、30分程ですご

く疲れる様子なので出来るだけ短く済ませました。徐々に回復されていることが分かり安心しました。

近くに伝国の杜があり、催事鑑賞に歩いてお出かけの様子を拝見しておりました。平成29年の秋口に体調が思わしくなく一時入院したとお聞きしましたが、快方に向かっていたとのことでした。同年12月11日、奥様から亡くなられたと急な連絡があり、すぐその夜お会いして焼香して参りました。死因は老衰とのことでした。

小関さんはいつから使い始めたかはわかりませんがペンネームを「城南小僧」と称していました。三一会しかり有為会しかり小間使いがとっても好きな人であったと思います。文化センタールで同じ屋根の下で働いた時、若い人を集め全国万歩会を結成し春夏秋冬市内の旧所名跡を歩く会を企画したり、アイディアマンでもありました。大先輩にはもつというんなことをご指導いただきました。これまでもご指導いただいたことに感謝申し上げます。ご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

(写真は小関家からの提供です)



我妻榮先生墓参記

我妻榮記念館館長 矢尾板 操

我妻榮先生の命日は10月21日である。昭和48年に亡くなられているので45回目の命日ということになる。そんな時期に東京の方からお墓参りするので参加しないかと誘われた。もちろんである。

平成30年10月21日15時に西武池袋線の石神井公園駅前というのが、待ち合わせの時と場所である。

幹事役の勲章書房編集部部長の竹田康夫氏が待っていた。その後学習院大学法学部部長の岡孝教授と、製造物責任法を研究し一昨日著書が発売されたという土庫澄子さんが現れる。

私を含めた4人がとりあえずのメンバーだ。日曜日の家族連れで賑わう石神井公園を横に見ながら「三宝寺」へ、よく手入れされた立派なお寺である。我妻榮先生のお墓を探し、土庫さん持参の掃除用具で皆で清掃する。その後竹田さん持参のお花を供え、お線香を焚き順次お参りする。最後に記念写真を撮影した。あいにく逆光でいい写真を撮れなかった。ようやく我妻先生のお墓に参拝できた満足感に浸り帰路についた。

途中、茶坊珈路という素敵なお店で一休み。そこで我妻先生の偉大さを語り合う。

夕方、献杯会場である粹粋に到着する。専修大学法学部の高橋寿



一教授、弁護士の外岡潤氏も到着して献杯後会食が始まる。

話は法律をベースに広がる。製造物責任法の話から、介護・後見制度と法律の関係へと素人の私はついていけない話だったが、法律

の世界を垣間見る思いだった。う)の伝記はまだまだ世に出ていそうそうこのことは是非書いておかねばならない。この場で「我妻榮伝」を刊行すべきという提案がなされた。なぜなら、あのように有名な先生(一説には、日本3の3大学者は・政治学の丸山眞男氏、西洋経済史の大塚久雄氏、そして民法の我妻榮氏であるとい合掌！

「我妻榮記念館 将来計画検討会」が発足

平成30年8月に「我妻榮記念館将来計画検討会」が発足しました。

その目的は、現在行っている、我妻榮先生の生家の保存と公開や我妻榮先生の顕彰、地域の文化活動拠点及び米沢有為会の歴史地活動を伝える拠点としての活用等を維持しながら、今後の維持及び整備計画の在り方や財政課題を長期的に検討し、米沢市当局と米沢有為会が共通した認識のもと今後の運営を進めていくこととするものです。

メンバーは、米沢市当局からは、企画調整部長、秘書広報課長(米沢有為会事務局)など3名、米沢有為会本部からは大滝会長など3名、米沢

支部からは、種村、伊藤、本多の副支部長など6名、我妻榮記念館から矢尾板館長など2名で、8月30日に第1回の検討会が開催されました。

明治の初めに建てられた建物で老朽化も進み、今までの度により米沢市ご当局的支援をいただきながら修繕を加えてきました。

しかし、貴重な資料等を土蔵に保管しており、資料の劣化など多くの問題を抱えております。

この度は、検討の緒についたばかりですが、今後も検討を重ね、多くの方が訪れる記念館としてまいりたいと思っております。

来館者のコーナー

☆流れる水を集めて池を作るのではなく、自ら井戸を掘ります。

72期 E・M

☆恥じない法律家になります。

T・T

☆志を新たに民法を勉強しなおします。

D・S

☆大学1年次よりいつか訪れたいと思っておりました。民法の基本を大切に邁進します。

A・T (67期)

☆念願かなって訪れることができました。次は司法試験に受かってから訪れたいと思います。

N・H

☆我妻先生の人生に触れられて、法学を修めるものとしてうれしく思う。

T・I

☆我妻先生の志に触れ、さらなる精進に励むべく、決意新たに頑張りたいと思います。

S・A

☆同じ学校の卒業生が、すごい方で誇らしく思う。興譲小H

M・N

☆学校に「まがき文庫」を作った人と知ってびっくりしました。

K・M

☆堆肥のような人間になります。

M・N

☆先生のお人柄やお家も含め、とても感慨深いものがありました。

M・H

☆改めて榮先生の偉大さに気づくことができました。勤勉さをぜひ見習いたいと思います。

K・T

☆先生の生きざまに感動しました。井戸を掘る人間になります。

東北大学 学生

☆私は今まで流れる水を手く水たまりを作る人生を送っていました。

H

☆先生の息吹を感じることができました。法律家の端くれとして精進いたします。

K・K

☆我妻先生が使われた机で筆をとるのは不思議な感覚です。

71期 M・U

☆ぶらりと立ち寄ったのですが、我妻先生の存在を初めて知りました。米沢に素晴らしい方がいらっしやうたのです。

M・O

☆展示内容が大変すばらしく感激いたしました。

T・N

☆判例カード、今の勉強法と通じるところあり。

S・N

☆我妻先生には、司法試験の受験以来弁護士となった今でもお世話になっています。感謝の生涯です。

Y・S

☆3時間車を運転して来る価値はありました。

M・Y

☆人が一生かかって成し遂げることができるとかどうかという事をいくつも成し遂げられた生涯だったと思います。心より尊敬いたします。

M・S

☆5月に司法試験を受験しました。合格したらまた来ます。

G・Y

☆民法を再度勉強しなおしたいと思いました。良い時間でした。

Y・S

☆思い切って司法試験を受験しようと思った。来てよかったです。

H・H

☆我妻博士の法学に対する姿勢に感動し、刺激をいただきました。

Z・S

した。「守一、無二、無三」を胸に精進してゆきたい。

T・I

☆大学生のころ、法学を学んでいたものとして、我妻先生の著書には何回となく触れることがありました。今回米沢方面の旅の途中に、ぜひ立ち寄ろうと思い訪れました。親切に案内してくれた記念館の方々に感謝いたします。

Y・H

☆生涯一法学徒 69期 Y・G

☆激動の時代を生き抜き、一般社会に法を普及させる仕事に尽力された我妻先生に心より敬意を表します。

Z・S

入館者

※平成8・10・12・13年の入館者は不明、平成4・18年の施設利用者は資料なし。

平成4年度	312名
平成6年度	635名
平成9年度	791名
平成14年度	172名
平成16年度	423名
平成18年度	434名
平成19年度	393名
平成20年度	425名
平成21年度	440名
平成22年度	360名
平成23年度	232名
平成24年度	486名
平成25年度	484名
平成26年度	480名
平成27年度	243名
平成28年度	463名
平成29年度	444名

平成5年度	560名
平成7年度	543名
平成11年度	492名
平成15年度	333名
平成17年度	465名

施設利用者

平成19年度	353名
平成20年度	463名
平成21年度	414名
平成22年度	315名
平成23年度	367名
平成24年度	353名
平成25年度	338名
平成26年度	515名
平成27年度	337名
平成28年度	517名
平成29年度	488名

(平成27年度、5月15日から9月30日まで劣化改修工事のため閉館)

記念館のスタッフ

よろしくお願ひいたします。

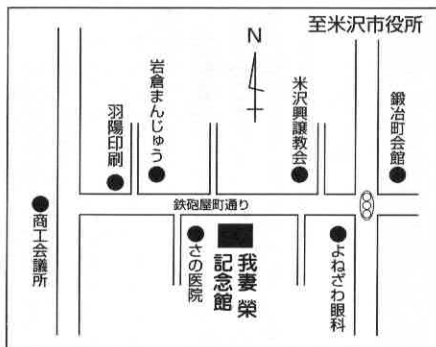
名誉館長	我妻 堯
顧問	上村 勘
館長	矢尾 板
運営委員	本多 和
運営委員	安部 節
運営委員	高橋 京
運営委員	五十嵐 子
運営委員	佐藤 繁
運営委員	神保 厚
運営委員	山田 隆
管理人	手塚 正弘

開館日の案内

日曜日、月曜日、木曜日、金曜日を開館日とします。

開館時間帯は午後1時から4時まで

入館料 無料



〒992-0045 米沢市中央3-4-38
TEL・FAX0238-24-2211

我妻榮記念館

検索